

「リスクへの自覚を促す教員研修教材」シリーズ

◆ 研修の進行を担う先生方へ

本研修シリーズは、「不祥事を身近なものとしてとらえる」「もしかしたら自分もやってしまうかも…」などといった**リスクへの自覚**を目的としています。日常に潜むリスクを認識し、具体的で実行可能な行動を考えるべく、本ガイドを「短時間でも考え甲斐のある研修」の一助としていただければ幸いです。

◆ 時間配分とグループ編成

各ワークは合計 10 分程度としていますが、各学校の状況に応じて、5～20 分ほどの範囲でアレンジいただけます。グループ編成は、3～4 人一組を基本としています。学年ごと・教科ごと・年代ごとのグループにしてもよいですし、これらを混合させた多様なメンバーのいるグループにしてもよいでしょう。

Vol.00 教員のライフキャリアとリスク ver.

時間	グループワークの手順	進行のポイント
1 分	1. キャリアとは… ◆ 「皆さんはキャリアという言葉の意味をご存知ですか？（キャリアの定義を読み上げてから）一般的には、職業関係を意味するワークキャリアと、家庭や余暇などを含むライフキャリアとがあります」	◆ 教員としてのライフキャリアを損なわないようにするという目的のもと、余暇を考えたりリスクを自分事として考えたりする ，という趣旨が伝われば OK。
1 分	◆ 「充実した余暇や教員としてのライフキャリアを損なわないようにするため、今日は私たち教員のライフキャリアとリスクについて考えてみましょう」	◆ 特にこの第 0 弾は、年度当初に実施することで、職員同士の会話のきっかけをつくり、職員同士が意見交換や相談をしやすい職場環境づくりにお役立てください。
4 分	2. 楽しい・うれしい・幸せな時間はどんなとき？ ◆ 「皆さんのライフキャリアの中で、『楽しい・うれしい・幸せな』時間はどんなときですか？自由に書いてみましょう。あわせて、これからのライフキャリアで挑戦してみたいことも書いてみましょう」	◆ お互いを知る・理解する良い機会なので、Work1 の時間を長く設定しても OK。
6 分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ 「参考になるかも？キーワード」は、特に「これから挑戦してみたいこと」を考えさせる際に参考にしてみるとよいでしょう。
1 分	※ ちなみに… ◆ 「教員の余暇の過ごし方のランキングですが、5 位～1 位は何でしょう？グループで予想してみてください」	◆ ランキングクイズのところは、司会進行の先生から答えを発表してください （5 位：読書、4 位：ごろ寝・ぼーっとする、3 位：テレビ・ラジオ、2 位：家族との団らん、1 位：動画鑑賞(YouTube など)）。
1 分	◆ （シンキングタイムの後に）「それでは、答えを発表します（右欄にかかっている答えを発表する）」	
3 分	3. もし仮に、懲戒処分を受けたとしたら？ ◆ 「では、リスクについても考えてみましょう。もし仮に、	◆ 懲戒処分になったり仕事がなくなったりした後の「ダメージ」を具体的に想起させ

	皆さんが免職や停職といった懲戒処分を受けて、仕事を辞めることになったとしたら、①生活はどう変わるでしょうか？、②人との関係はどう変わるでしょうか？、ワークシートに記入してください」	ることが目的。
5分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ Tips：教員の懲戒処分は、免職・停職・減給・戒告の4種類。
2分	◆ 「教員として働くワークキャリアだけでなく、余暇を始めとした皆さんのライフキャリアを損なわないためにも、今日の研修をリスクについて考えるきっかけにしたいだけだと思います」	◆ 不祥事を起こすと生活や人間関係が一変するとはよく言われるが、具体的にどのような一変するかをグループで議論させる。
		◆ グループで共有させた後は、全体で共有する時間をつくってもよい。

Vol.01 飲酒運転のリスク ver.

時間	グループワークの手順	進行のポイント
3分	1. これからのライフキャリアを考えよう ◆ 「もし自由に3日間を過ごせるとしたら、どんなことをして楽しく過ごしますか？どんなことにチャレンジしたいですか？ワークシートに記入してください」	◆ まず、自分のライフキャリア（余暇、家庭、仕事といった生涯にわたる役割や経験の積み重ね）について考えさせる。
5分	◆ 「では、余暇の過ごし方について、ワークシートを見せ合いながら、グループで共有してみましょう」	◆ 話し合いやすい雰囲気づくりのため、各自自由に発想させ、議論させる。
2分	◆ 「充実した余暇やライフキャリアを失わないようにするため、今日はリスクについて考えてみましょう」	◆ ライフキャリアを損なわないようにするという目的のもと、リスクを自分事として考えていく 、という趣旨が伝わればOK。
4分	2. 飲酒運転に“なってしまう”としたら？ ◆ 「『この条件・環境が揃ったら、もしかすると私も…』と思うような、自分が飲酒運転をすることになるシナリオを考え、ワークシートにチェックを入れてください」	◆ 自分が飲酒運転に “なってしまう” ときの 条件・環境・経緯 を考えられるかが重要。
6分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ ワークシートの選択肢以外で、「こんな飲み会で…」「こんな条件が重なれば…」という考えがあれば、書き足させてもOK。
3分	3. 自分が気をつけるための具体的な行動は？ ◆ 「飲酒運転のリスクを減らすため、考えたシナリオを踏まえて、自分が気をつけるための具体的な行動を考え、ワークシートに記入してください」	◆ 「飲む量を決めていたのに…」「車で行かざるを得なかった」といった状況に直面したときにどうするかを想定させる。
5分	◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」	◆ 自分が普段行なっている対策やこれから試したい方法をグループで議論させる。
2分	◆ 「飲酒運転のリスクに対し、“飲み過ぎない”ではなく、自分にとって何が高リスクの条件・環境となるか、その状況に直面した時にどうするかを考えておきましょう」	◆ グループで共有させた後は、全体で共有する時間をつくってもよい。

Vol.02 職員間ハラスメントのリスク ver.

時間	グループワークの手順	進行のポイント
2分 5分 3分	1. どこからがハラスメント？ ◆ 「1～5の言動について、自分よりベテランの教員からされたらイヤな順に並べ替えて、ワークシートに記入してください」 ◆ 「ワークシートをグループで共有しながら、イヤな順とその理由もあわせて議論してみましょう」 ◆ 「『私はイヤじゃないから、他の人もイヤじゃないだろう』という発想に陥るのが危険です。目の前の人はどうなことがイヤなのかを理解していくことが大事ですね」	◆ イヤだと感じる言動が人によって違う ことを実感させられればOK。 ◆ グループで共有させた後は、職員全体で共有する時間をつくってもよい（たとえば、最もイヤな言動（1番左の枠）の番号をそれぞれ挙手させ、どのくらい意見がわかれるかを確認する、など） ◆ よりよいコミュニケーションのために、 職員同士でイヤなことを共有し合い、理解し合う という趣旨が伝わればOK。
2分 6分 2分	2. 傍観者ならどこから対応する？ ◆ 「皆さんが、職場で①～⑤の状況を見かけたとして、自分ならどうしますか？ 5つの状況に対し、4つの行動の選択肢の中から、[自分ならこうする]行動に○を、[場合によってはこうする]行動に△を記入してください」 ◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」 ◆ 「ハラスメントのリスクに対しては、場面や状況ごとにどこから対応が必要になるかという基準を、チームや組織で決めていきましょう」	◆ 議論を深めるために、5つの場面は敢えて「やや抽象的」な状況にしている。例えば、①の場面なら「どんな怒り方かによって自分の行動が変わる」ことが考えられる。 ◆ したがって、△を書いた場面は、どのような場合にどのような行動をとるかを議論させる。 ◆ 状況ごとに、人ごとに、捉え方や行動が異なってくるのはもちろん、 どのような状況から対応すべきか を議論できればOK。
3分 5分 2分	3. 自分が気をつけるための具体的な行動は？ ◆ 「職員間ハラスメントのリスクを減らすため、または対応するために、自分が気をつけるための具体的な行動を考え、ワークシートに記入してください」 ◆ 「ワークシートをグループで共有してみましょう」 ◆ 「職員間ハラスメントのリスクに対し、“自分はイヤじゃないから”ではなく、目の前の人は何をイヤがるのかを想像したり実際にたずねたりして理解していきましょう。また、自分が傍観者のときも、早期発見と迅速な対応につなげるために、どこから対応が必要になるかをチームや組織で決めていきましょう」	◆ 「自分が加害側にならないために」「自分が傍観者の立場だったら」という2つの側面から考えさせるとよい。 ◆ グループで共有させた後は、職員間ハラスメントを自分たち事としてとらえさせるために、全体で共有する時間をつくってもよい。 ◆ イヤなことを “わかったつもり”から脱却 させていくことと、 チーム・組織としての対応のスタートライン を議論することができればOK。